

原子力システム研究開発事業 —基礎研究開発分野—  
革新技術創出型 事後評価総合所見

研究開発課題名: 高速系革新炉の成立性に影響する核データの新規測定技術開発

研究代表者(研究機関名): 千葉 敏(独立行政法人日本原子力研究開発機構)

研究期間及び研究経費: 平成21年度～平成23年度(3年計画)271百万円

項目	要 約
1. 研究開発の概要	高燃焼度、リサイクル燃料の使用を想定する高速系革新炉の成立性を検証するために不可欠でありながら、放射性であるために中性子を用いる直接測定では測定が困難、または不可能なマイナーアクチノイド、長寿命核分裂生成物などの核データの測定を重イオン核反応により行うことを可能にするための技術開発を行う。
2. 総合評価	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px; text-align: center; width: 40px; height: 40px; line-height: 40px;">A</div> <div> <p>・検出器／測定システムを開発し、実測定へ応用するなど、当初の目的が達成されており、重イオンを用いた核データ測定の今後の発展に寄与する優れた成果が挙げられている。今後、実機適用に向け、革新炉や加速器駆動核変換システム開発関係者の意見を聞きながら、連携して研究を進めてもらいたい。</p> <p>S) 極めて優れた成果が挙げられている。  <b>A) 優れた成果が挙げられている。</b>                      B) 一部を除き、相応の成果が挙げられている。                      C) 部分的な成果に留まっている。                      D) 成果がほとんど挙げられていない。</p> </div> </div>